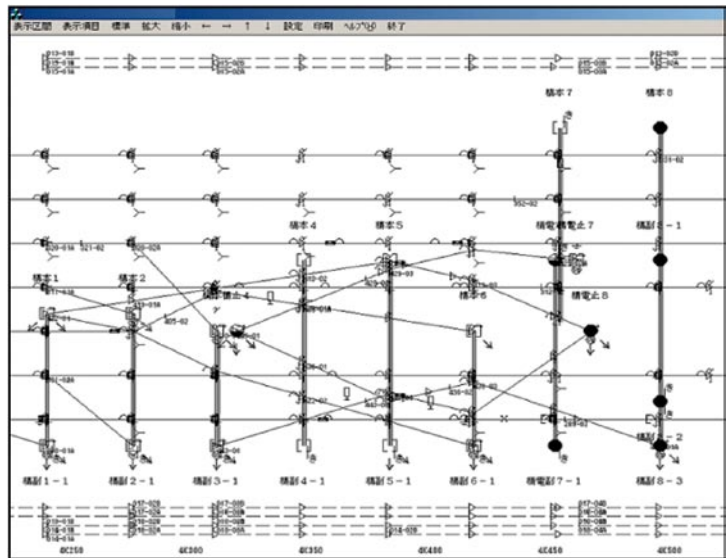


## 電車線諸元データチェックツールへの図面自動生成手法の適用

菊地誠 藤倉英聡

近年各鉄道事業者において、設備の各種情報を管理するシステムの構築が進められている。これにより設備データ管理の正確化／省力化、データ検索及び帳票作成の高速化、検査計画支援等の効果が期待されているが、システムの構築や運用面での課題も抱えているのが実状である。その一解決方法として鉄道総研では、設備記述言語を使用した設備管理システム構築手法を提案してきた。JR東日本においては、電力設備の維持管理のためのデータベース及び作業支援システムが運用されている。工事による設備の改良後、速やかに諸元データを修正することが重要な課題とされているが、工事によって変更となる設備データ数が膨大であり監督員や保守担当者がチェックに時間を要することから、諸元データ修正の作業性及び精度の維持が問題となっている。そこで、図面自動生成の手法を適用し、設備の諸元データを視覚的に効率良くチェックするためのツールを試作した。

(鉄道総研報告, 2008年12月号)



チェックツールの初期表示画面